

観音寺市内遺跡発掘調査概要報告書

平成14年度国庫補助事業報告書

詳細分布調査概要報告書Ⅱ

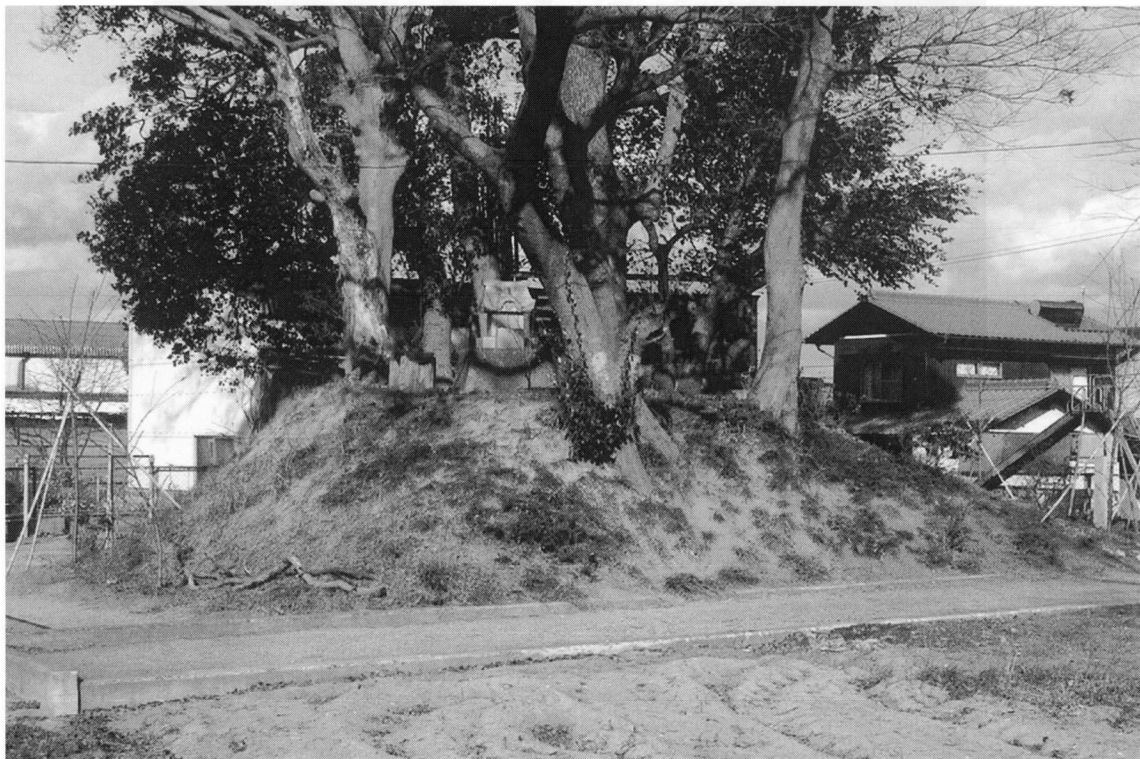
2003.3

観音寺市教育委員会

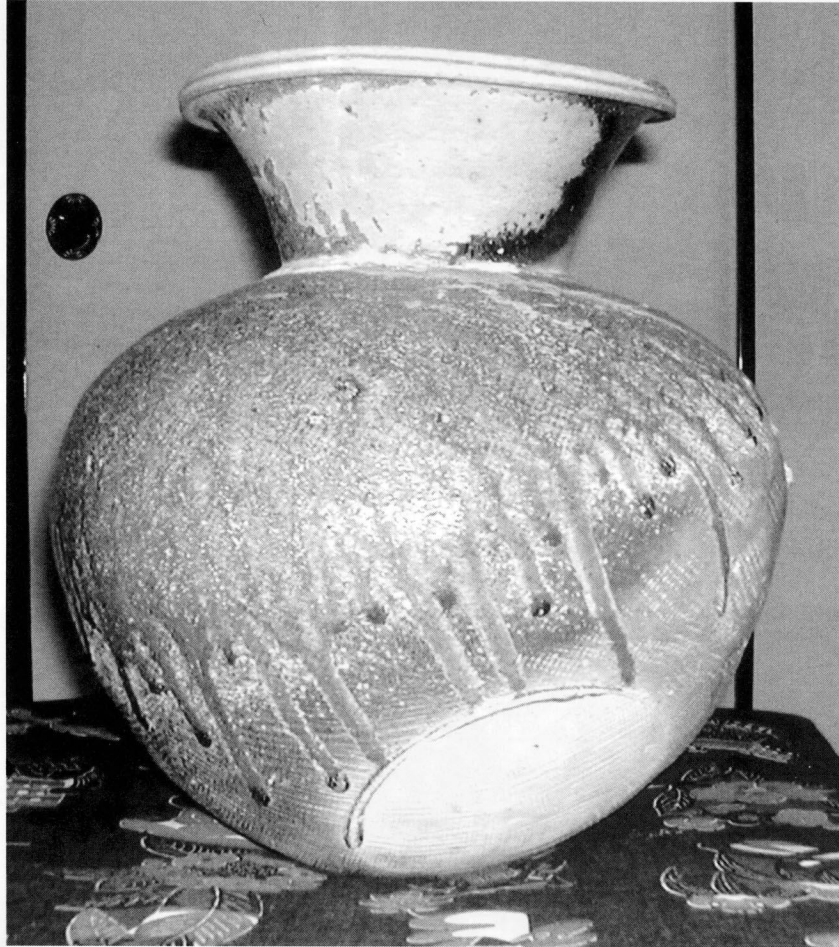




みこし山塚(南東側から撮影)



地神塚(南側から撮影)



幸助藪古墳出土須恵器

(須恵器(南朝)出土)

# 例 言

1. 本書は、観音寺市教育委員会が平成14年度国庫補助事業として実施した、観音寺市内遺跡発掘調査事業の詳細分布調査概要報告書である。
2. 今回の調査は、香川県観音寺市旧観音寺町地区（八幡町、有明町を除く）、常磐地区（植田町、出作町、流岡町、村黒町）、一ノ谷地区（中田井町、古川町、本大町、吉岡町）、豊田地区（原町、新田町、池之尻町）を対象地区とした。  
また、重点調査地区として豊田地区新田町字堂ノ岡・立石地区周辺を対象とし、お塚さん、みこし山塚、地神塚、経塚の地形測量とトレンチ調査（経塚）を実施した。
3. 発掘調査、調査地区内の分布調査及び本書の執筆・編集は、観音寺市教育委員会事務局生涯学習課 文化振興係 主査 久保田昇三が担当した。また、出土遺物の整理、実測、トレースの一部は一藁智代美が担当した。
4. 挿図の一部に観音寺市全図其の1(1/10,000)、観音寺都市計画図13(1/2,500)を使用した。図面の方位はすべて磁針方位で示した。また、実測図の縮尺はすべてスケールで表示した。
5. 出土遺物は観音寺市郷土資料館で保管している。  
図面・写真等は観音寺市教育委員会事務局で保管している。
6. 本事業の実施にあたっては、石井義隆氏【お塚さん】、（宗）村社金安神社 代表総代 片桐義夫氏【みこし山塚】、西山正美氏【地神塚】、小野一孝氏【経塚】、発掘調査に携わった松岡豊史氏、坂田昇氏、西山秋久氏、牧野巧氏にご協力を頂いた。記して、謝意を表します。



# 目次

グラビア・例言・目次

	頁
1. はじめに .....	1
2. 調査対象地区の概要（立地と環境） .....	1～2
3. 分布調査結果 .....	2～9
(1)おもな遺跡の概要	
①鐘子塚古墳	
②青塚古墳	
③黒島林1号古墳	
④幸助藪古墳	
⑤長砂古4号墳	
⑥黒島林8号古墳	
⑦樋ノ口遺跡	
⑧向井・西の岡遺跡	
⑨古川遺跡	
⑩村黒遺跡	
⑪久染遺跡	
⑫大原東古墳	
⑬大塚	
⑭四ツ塚	
⑮青塚遺跡	
⑯黒島林大龍王古墳	
4. 参考・引用文献 .....	4
◆調査地区内遺跡分布図（1） .....	5
◆調査地区内遺跡分布図（2） .....	6
◆調査地区内遺跡分布図（3） .....	7
◆調査地区内遺跡一覧表 .....	8～9
5. 重点調査地区 .....	10～18
(1)堂之岡・立石地区周辺の概要と遺跡分布	
◆堂之岡・立石地区周辺遺跡分布図（1/2,500） .....	11
①お塚さん .....	10
②みこし山塚 .....	12
③地神塚 .....	12
④経塚 .....	12～13
(2)まとめ .....	13
◆お塚さん・地神塚地形測量図 .....	14
◆みこし山塚地形測量図 .....	15
◆経塚地形測量図 .....	16
◆土層図（経塚） .....	17
I. トレンチ1（北東側）・トレンチ3（南西側）	
II. トレンチ2（北東側）	
III. トレンチ2（南西側）	
◆出土遺物実測図・拓本 .....	18
6. 写真目次 .....	19

# 1. はじめに

本事業は、観音寺市内に所在する埋蔵文化財の位置、範囲及び性格等を把握するため詳細な分布調査を実施し、今後の文化財保護行政の基礎資料とするものである。

平成14年度においては、調査対象地域を観音寺市中部地域(旧観音寺町地区(八幡町、有明町を除く)、常磐地区、一ノ谷地区、豊田地区)に設定し、基本的には踏査により現地確認を行い分布調査を実施した。

また、調査対象地区内に重点調査区域を設けた。重点調査区域は豊田地区新田町字堂ノ岡・立石地区周辺を対象とし、踏査とあわせて地形測量(お塚さん、みこし山塚、地神塚、経塚)を中心に区域内の遺跡の確認を行った。なお、経塚については、以前に開墾などで掘られたことが伝えられているが、遺跡の範囲、性格等が未詳であったため、今後の遺跡の保存を図るための資料を得るため地形測量に加えトレンチ調査を行った。

## 2. 調査対象地区の概要(立地と環境)

今年度の調査対象地区は、古代の讃岐国刈田郡坂本郷(旧観音寺町、植田町、出作町)、高屋郷(村黒町、流岡町、吉岡町)、山本郷(中田井町、池之尻町、原町、新田町)に比定される地域を中心とした地域である。

調査地区内を郷域に分け、その概要を記することにする。

### ①坂本郷(旧観音寺町、植田町、出作町)

瀬戸内海(燧灘)に面する海岸線から観音寺市街地とそれより東の平野部(国道11号線付近まで)に該当する地域である。

沿岸部(字加茂、字見卓)に近い場所は埋め立てなどで比較的新しく造成された地域でありこれまでに遺跡の所在は確認されていない。

旧観音寺町の市街化された区域については、高丸城(観音寺城)や白浜遺跡などの中世から近世にかけての遺跡が確認されているが、それより古い時代の遺跡は未確認である。この地域は現在、市役所をはじめとする公共施設や文教施設が集中しており商業地や住宅地とあいまって市街地を形成している。

市街地の東方の平野部分は近年住宅建設が増加する傾向にあるが、まだまだ農用地が多く残る地域である。遺跡分布図でも確認できるように古代条里地割が部分的ではあるが残存していることが確認できる。また、植田町には市内でも数少ない前方後円墳であったといわれる大塚や野津古塚(どちらも現在は墓地になっている。)があり、菅原道真ゆかりの地と伝えられる菅原神社(植田天満宮)なども所在する。

### ②高屋郷(村黒町、流岡町、吉岡町)

2001年3月刊行の詳細分布調査概要報告に掲載以外の高屋郷の地域である。基本的には財田川以南の地域で北側には三野郡と接し、東は国道11号線付近で山本郷に接する地域である。

流岡町には、延喜式内社の加麻良神社が鎮座する。村黒町には、讃岐山脈からゆるやかにのびる舌状の台地の先端部に村黒遺跡が確認されている。この台地の北側には平野が広がる地形となっている。

### ③山本郷(中田井町、池之尻町、原町、新田町)

国道11号線から東側、財田川から南、東は三豊郡山本町に接し、南は粟井町や木之郷町が境と



なっている地域である。

中田井町をはじめとする古川町、本大町は平野部に位置し、四国横断自動車道建設に伴う発掘調査では弥生後期を中心とする一ノ谷遺跡群が確認されている。また、古川遺跡(古川銅鐸出土地)についてもこの平野部に位置している。

原町、池之尻町、新田町については、前述の舌状台地の中心部にあたり、確認されている遺跡は数多い。おもなものには、原町の青塚古墳(古墳時代中期・前方後円墳)や罐子塚古墳(古墳時代・後期)で代表される母神山古墳群の一部と今回重点調査地区とした堂ノ岡・立石の古墳群などがある。

### 3. 分布調査結果

分布調査にあたっての基本作業を次の2項目とした。(観音寺市北部地域を対象とした平成12年度と同様)

- ①現在まで確認されている遺跡の現地確認を行い位置等の再検証を行う。(周知の遺跡の再検証)
- ②文献等はいくまでも参考程度にし、踏査や聞き取り調査を中心に調査を実施し、新しい遺跡の確認を行う。また、遺跡とは断定できないが、参考となる場所についても、記録する。

今回の調査結果を調査地区内遺跡分布図(1)、(2)、(3)と調査地区内遺跡等一覧表にまとめた。以下、図表の説明を加えておく。

#### ◎調査地区内遺跡分布図

- ・この分布図は、字ごとに境界線を入れ、各字名を記入した。
- ・遺跡の位置は●で示した。
- ・遺跡の推定範囲は……で示した。

#### ◎調査地区内遺跡一覧表

- ・表左欄の遺跡番号と分布図番号は対応している。

#### (1)おもな遺跡の概要

##### ①罐子塚古墳【地図番号31】市指定文化財(史跡)

池之尻町の三豊総合運動公園内に所在する。二段築成の墳丘をもつこの古墳は、下段の直径30m以上、周囲との比高差が1.5mあり、上段の円丘の直径20m、その高さ3.8mの母神山古墳群ではぬきんでた最大級の墳丘である。埋葬施設は、複室構造の横穴式石室であり、全長9.8m、玄室長5.6m、玄室奥壁幅2.55m、玄室高3.2mの規模である。出土品には、銀製冠立飾、単鳳環頭大刀柄頭、三葉環頭柄頭、金銅製馬齢(6)、トンボ玉、銀製空玉や須恵器など多くの出土品がある。時期は6世紀末と考えられる。

##### ②青塚古墳【地図番号23】市指定文化財(史跡)

原町に所在する帆立貝式と考えられる前方後円墳である。現在、前方部の墳丘は失われているが、全長44m、前方部長約10mあり、後円部は二段築製で、下段は直径33m、高さ1.5m前後、上段は直径25m、高さ3m前後のもので、周溝を配している。過去には円筒埴輪が並んで出土したという記録がある。また、現在も葺石と考えられる石材が散在している。

また、埋葬施設は部分的に破壊されていることが予測されるが、室本町の丸山古墳と同様に阿蘇

溶結凝灰岩製の石棺の一部が出土していることや時期の点からも検討課題である。

### ③黒島林1号古墳【地図番号29】

昭和41年11月、市内池之尻町の観音寺荘建設工事に伴い発見され、調査された。直径20m、高さ4m前後の円墳で、全長5.8mの両袖式の横穴式石室である。天井石や側壁の大部分が失われ石室の基底部分のみの残存であった。出土品は、馬具類、鉄刀、鉄鏃、鉄鎌、耳環、紡錘車、須恵器などであり、築造年代は6世紀末であり、7世紀前半代に追葬がされたとみられる。

現在は、元の場所から東側の三豊総合運動公園トリムの森に移築保存されている。

### ④幸助藪古墳【地図番号36】

現在は存在していないが、新田町教善寺の裏手にあった古墳である。このあたりは大正初期に開墾され同古墳が発見されたようである。埋葬施設は横穴式石室で昭和37年の埋蔵文化財包蔵地カードによれば羨道があり、玄室は奥行約4m、幅2m、高さ1.5mの規模であったようである。

出土品については1点であるが須恵器の壺(完形品)が付近の民家に残されている。

### ⑤長砂古4号墳【地図番号27】

四国横断自動車道建設に伴う発掘調査で発見された。墳丘規模は直径12m～14m程度の円墳と推定されている。横穴式石室規模は玄室長2.6m、玄室奥壁幅1.7mである。特徴的なのは玄室の床面が二重構造になっていることである。第1床面は4～10cmの礫が敷かれ、下層の第2床面は中央部に排水溝を、その両側は10～20cm程度の礫を敷き詰める構造である。加えて、棺を置くための棺台ではないかと思われる床面の石の配列状況も確認されている。

### ⑥黒島林8号古墳【地図番号29】

発掘調査は昭和56年に実施され、出土品に特徴的なものがある。鉄刀の鐔縁金具と切羽縁金具に唐草文が象嵌されていることである。

### ⑦樋ノ口遺跡【地図番号9】

1987年の県教委による発掘調査の結果、縄文後期の溝状遺構と弥生前期の木棺墓34基が確認された。居住遺構が共存しないことにより、墓地としての性格を有していることが推測できる。

### ⑧向井・西の岡遺跡【地図番号21】

中田井町の洪積台地状に営まれており、1985年の圃場整備事業に伴う事前調査により竪穴住居跡が検出されている。出土遺物から、弥生後期～末期のものと考えられる。

### ⑨古川遺跡【地図番号15】

大正12年4月17日に宮武氏によって古川町字南下1063番地で銅鐸を発見した。銅鐸の埋納状況は数人からの聞き取りによると、耕作土より下部の土層に鈕を下、裾部を上にし、鏃を上向きに約45°に傾いた状態で、表土から鈕までは約60cmであったようである。銅鐸の鑄上がりは不良で、各部分に鑄損じや流水文様の鑄くずれがみられる。鈕は外縁付鈕で、四頭渦文、双頭渦文、連続渦文を配している。身は斜格子横帯で上下に区画される。高さ45.8cm、重さ4,347g。

### ⑩村黒遺跡【地図番号3】

舌状を呈する洪積台地の先端部にあり、弥生土器、土師器、須恵器が採集されている。須恵器については、蓋杯、高杯、ハソウ、器台、甕があり、陶邑第1型式の資料に類すると考えられている。遺構については、3基の円形竪穴住居が検出されているようであるが、詳細は不明である。



⑪久染遺跡【地図番号 32】

母神山北麓に営まれた弥生後期から古墳時代初期の集落跡。1986年の調査で方形の竪穴住居4基(焼失家屋1基含む)をはじめ掘立柱建物跡、溝状遺構が確認されている。また、竪穴住居跡の伴出遺物にはサヌカイト製の打製石包丁などがみられる。

⑫大原東古墳【地図番号 44】

新田町字大原東の観音寺市と山本町の境界付近の尾根上に立地する。埋葬施設は東方向に開口する横穴式でありすでに天井石や側壁、墳丘の大半は失われている。

⑬大塚【地図番号 11】

植田町字北原に位置する。現在は墓地になっているが、昭和37年の埋蔵文化財包蔵地カードによれば大正期には前方後円墳の形を残していたようである。主軸は北東-南西で、後円部は北東にあったようである。

⑭四ツ塚【地図番号 41】

新田町字四ツ塚に所在した4基の古墳である。うち3基は荒神社の裏手にあり石室(横穴式)内へ出入り可能であったが、開墾等により破壊されたようである。残りの1基はそこから北東に少し離れた民家の裏手にあったようであるが、これも同様に開墾により破壊され詳細は不明である。

⑮青塚遺跡【地図番号 24】

原町字青塚19番地1で確認された。1992年の調査で溝状遺構1と土坑1を検出。溝状遺構は幅1.6m、深さ60cmで、弥生式土器が出土した。時期は弥生後期後半から末のものである。

⑯黒島林大龍王古墳【地図番号 30】

平成6年度に三豊総合運動公園拡張事業に伴い試掘調査が実施された。母神山の頂上部から北に伸びる尾根上に位置する。直径約20mの円墳と推定されるが、遺跡の残存状況は悪くかなりの破壊を受けている。出土品は須恵器片が20点程度であったが、昭和62年4月に当遺跡の西側(石室開口方向)の墳裾部付近より須恵器片が多数採集されている。また、前述の須恵器片が採集されたすぐ近くより弥生後期の壺棺が発見されていることも見逃せない。

## 4. 参考・引用文献

- ・『四国横断自動車道建設に伴う 埋蔵文化財発掘調査報告書 第七冊 一ノ谷遺跡群<本文編>』平成2年2月28日 編集(財)香川県埋蔵文化財調査センター 発行 香川県教育委員会
- ・『四国横断自動車道建設に伴う 埋蔵文化財発掘調査報告書 第五冊 石田遺跡 長砂古遺跡 柞田八丁遺跡』昭和63年3月31日 編集(財)香川県埋蔵文化財調査センター 発行 香川県教育委員会
- ・『観音寺市誌(通史編・資料編)』昭和60年1月1日 観音寺市

調査地区内遺跡分布図(1)





# 調査地区内遺跡分布図(2)







調査地区内遺跡一覧表（※番号は遺跡分布図番号と同じ）

番 号	遺 跡 名	所 在	種 類	時 代	時 期	内 容・規 模・特 徴
1	高丸城跡（観音寺城）	観音寺町（殿町）	城跡	室町 安土桃山		堀跡といわれるものが残存
2	白浜遺跡	観音寺町	白州跡			
3	村黒遺跡	村黒町	集落跡	弥生 ↓ 古墳	→ 後期	円形竪穴式住居 3基
4	横田遺跡	流岡町字横田	集落跡			
5	満願寺跡	流岡町字横田	寺院跡			
6	吉岡阿弥陀寺跡	吉岡町本村	寺院跡			
7	坂屋敷遺跡	吉岡町吉岡西坂屋敷	散布地			
8	のつこ遺跡	吉岡町のつこ	散布地			
9	樋ノ口遺跡	本大町本大下		縄文 弥生	→ 後期 → 前期	→溝状遺構 →木棺墓 3 4 基
10	七福山正福寺跡	本大町本大上道西	寺院跡			
11	大塚	植田町字北原	古墳	古墳		前方後円墳（現在は墓地）
12	七宝山神照寺跡	植田町天神	寺院跡			
13	野津古塚	植田町原野津古	古墳	古墳		円墳または前方後円墳 横穴式石室 石室規模→1. 2m×1. 9m 高さ1. 8m
14	奥之坊海岸寺跡	出作町字北	寺院跡			
15	古川遺跡	古川町南下1063	銅鐸出土地	弥生	中期	
16	一ノ谷遺跡群	本大町字平塚、香門 古川町字竹道、山ノ前	集落跡	旧石器 ↓ 江戸		
17	古川下所遺跡	古川町下所	墓地	弥生	後期	壺形土器
18	壱子塚（平塚）	古川町字香門	古墳	古墳		円墳
19	谷間が原遺跡	古川町谷間ヶ原	散布地？			
20	石ノ経遺跡	中田井町石の経	集落跡	弥生	後期	方形竪穴住居 1基 壺形墓 2基
21	向井西の岡遺跡	中田井町向井・西の岡	散布地？	弥生	後期	方形竪穴住居 3基
22	下新田原遺跡	中田井町	散布地			
23	青塚古墳	原町青塚	古墳	古墳	中期	全長4. 4mの前方後円墳 埋葬施設は不明 帆立貝式 ・後円部径3. 3m 石棺の一部出土 ・前方部長約1. 0m （阿蘇溶結凝灰岩）
24	青塚遺跡	原町字青塚19-1		弥生	後期後半～未	溝状遺構、土坑
25	砂礫古墳	原町青塚	古墳	古墳	後期？	直径1. 0m前後の円墳
26	中原遺跡	原町中原				
27	長砂古遺跡	池之尻町長砂古	集落跡 古墳	縄文 ↓ 近世		竪穴式住居 横穴式石室（長砂古4号墳）→直径12～14mの円墳 掘立柱建物跡
28	石田遺跡	池之尻町石田	集落跡	弥生 ↓ 中世	弥生後期 ↓ 中世	
29	母神山古墳群黒島支群	池之尻町山越	古墳	古墳	後期	黒島林1号墳（移築保存） 直径2. 0mの円墳 黒島林2号墳（破壊） 黒島林3号墳（現存） 直径1. 4mの円墳 黒島林4号墳（現存） 直径1. 6mの円墳 黒島林5号墳（記録保存） 直径2. 0mの円墳 黒島林6号墳（記録保存） 直径1. 6mの円墳 黒島林7号墳（記録保存） 直径1. 5mの円墳 黒島林8号墳（記録保存） 直径1. 4mの円墳 黒島林13号墳（記録保存） 円墳 黒島林14号墳（記録保存） 円墳
30	黒島林大龍王古墳	池之尻町字山越、字母神	古墳	古墳	後期？	
31	鑪子塚古墳	池之尻町三谷	古墳	古墳	後期 6C後半	直径3. 0mの円墳 埋葬施設 石室規模 横穴式石室 ・石室全長 9. 8m 両袖式複室構造 ・玄室長 5. 6m ・玄室奥幅 2. 55m ・玄室高 3. 2m
32	久染遺跡	池之尻町字久染	集落跡	弥生 ↓ 古墳	後期	方形竪穴式住居 4基 掘立柱建物 溝状遺構
33	中新田遺跡	新田町中新田	散布地			
34	経塚古墳	新田町字堂ノ岡1313-2	古墳	古墳	後期	直径約2. 5m（推定）の円墳
35	堂之岡遺跡	新田町字堂ノ岡		近世		溝、土坑、ピット
36	幸助敷古墳	新田町字堂ノ岡	古墳	古墳	後期	石室規模（現存していない） 玄室長約4m 玄室幅約2m 玄室高約1. 5m （S37包蔵地調査カードより）
37	地神塚	新田町字堂ノ岡1285	古墳	古墳	後期？	直径約1. 5m（推定）の円墳
38	みこし山塚	新田町字堂ノ岡1274-1	古墳	古墳	後期？	直径約3. 0m（推定）の円墳？
39	お塚さん	新田町字立石892-2	古墳	古墳	後期？	直径約1. 5m（推定）の円墳
40	立石（大石）古墳	新田町立石	古墳	古墳		巨石が残るのみ
41	四ツ塚	新田町字四ツ塚	古墳	古墳		4基の古墳が存在していた
42	おう塚古墳	新田町大原	古墳	古墳		平成6年調査時には現存していない。
43	尾端古墳	新田町大原西	古墳	古墳		平成6年調査時には現存していない。
44	大原東古墳	新田町大原東	古墳	古墳		横穴式石室

出土遺物	遺物保管場所	調査年度	報告書	参考文献・資料
				西讃府志
弥生式土器 土師器 須恵器 等				
土師器				
		S62	無	
外縁付鈕式流水文銅鐸	東京国立博物館	T12発見	無	観音寺市誌
銅鏡	香川県埋蔵文化財調査センター	S60～S61	1990	四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第七冊 ノノ谷遺跡群
弥生式土器 石器 等		S60	無	
弥生式土器 土師器 等		S36	無	
弥生式土器 須恵器 等		S60	無	
円筒埴輪	観音寺市郷土資料館 観音寺第一高校	S22 地形測量	無	観音寺市誌 新編香川叢書 考古篇 香川考古第3号
弥生式土器	観音寺市郷土資料館	H4 未調査	無 無	
弥生式土器 土師器 須恵器 等	香川県埋蔵文化財調査センター	S61	1988	四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第五冊 石田遺跡 長砂古遺跡 作田八丁遺跡
弥生式土器 土師器 須恵器 等	香川県埋蔵文化財調査センター	S60～S61	1988	四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第五冊 石田遺跡 長砂古遺跡 作田八丁遺跡
馬具、鉄刀、鐮、鉄族 等	黒島神社	S41	S42	母神山黒島林一号古墳群調査報告 母神山黒島林一号古墳群調査報告
横瓶、高杯、蓋杯				
トンボ玉、須恵器、土師器等	観音寺市郷土資料館	S49	1977	黒島林第5・6号墳調査報告
鉄刀、刀子、鉄族、鉄斧 等	観音寺市郷土資料館	S49	1977	黒島林第5・6号墳調査報告
鉄刀、鉄族、耳環、須恵器等	観音寺市郷土資料館	S57	無	観音寺市誌
鉄刀、鉄族、紡錘車、鉋 等	観音寺市郷土資料館	S57	無	観音寺市誌
馬具、玉類、紡錘車 等	観音寺市郷土資料館	S49	無	観音寺市誌
鉄鋤、鎌、須恵器 等	観音寺市郷土資料館	S49	無	観音寺市誌
須恵器片 等	観音寺市郷土資料館	H7 (試掘)	無	香川県埋蔵文化財調査年報 1995.3
銀製冠立飾 単鳳環頭大刀柄頭 三葉環頭柄頭 金銅製馬飾 トンボ玉 銀製空玉 須恵器 等	観音寺市郷土資料館	S48	無	観音寺市誌
弥生式土器 土師器 須恵器 石包丁	観音寺市郷土資料館	S61	無	
須恵器	観音寺市郷土資料館	H14 地形測量 トレンチ調査	2003	観音寺市内遺跡発掘調査概要報告書 (詳細分布調査概要報告書 2003.3)
陶磁器、備前焼、土師器、瓦器 等		H1	1990	堂之岡遺跡発掘調査概報 1990.3
剣 須恵器 (壺)	剣は不明 壺は個人所有			
(S37包蔵地調査カードより)	(S37包蔵地調査カードより)			
		H14 地形測量	2003	観音寺市内遺跡発掘調査概要報告書 (詳細分布調査概要報告書 2003.3)
須恵器片表採	観音寺市郷土資料館	H14 地形測量	2003	観音寺市内遺跡発掘調査概要報告書 (詳細分布調査概要報告書 2003.3)
須恵器片表採	観音寺市郷土資料館	H14 地形測量	2003	観音寺市内遺跡発掘調査概要報告書 (詳細分布調査概要報告書 2003.3)
		H6	無	香川県埋蔵文化財調査年報 1995.3
		H6	無	香川県埋蔵文化財調査年報 1995.3
		未調査	無	

## 5. 重点調査地区

### (1) 堂ノ岡・立石地区周辺の概要

本地区は、観音寺市新田町字堂ノ岡、字立石に該当し、南はすぐ粟井町に接する場所である。粟井町の菩提山麓からのびる標高50m程度の丘陵状の洪積台地の南側縁辺部に位置する。粟井町側との比高差は約7mあり、眺望がひらける場所となっている。この地区の中央部には浄土真宗興正寺派の教善寺があり、すぐ南東側を金毘羅参詣道が南西から北東方向へと通っている。また、金毘羅道の縁辺には金安神社がある。

今回の重点調査地区では、この堂ノ岡・立石地区に所在する遺跡の調査を対象とした。特に、お塚さん、みこし山塚、地神塚、経塚については、これまでその存在は知られていたが聞き取り調査程度の資料しかなく、今後の保存を図るための具体的な資料を得るため、地形測量を4箇所、トレンチ調査を1箇所(経塚)実施した。

また、右頁により詳しい分布図(1/2,500)を掲載しているので、少し説明を加えておく。図中番号1～4は後段に記すので省略するが、5～8以下を若干説明しておく。

#### ・番号5. 遊慶庵塚跡

現在は墓地となって建物もなにもないが、この地にかけては遊慶庵といわれる庵があったようである。昭和37年の埋蔵文化財包蔵地カードの調査者が推定している場所である。平面は方形(25×20m)であり周囲に石垣が築かれて周囲からは70～80cm程高くなっている。現地の北西隅部分には石室の用材とみられる石材がいくつか残されている。また、今回、須恵器片の採集をしているのでその可能性は否定できない。

#### ・番号6. 幸助藪古墳

この古墳の存在は確実であるが、具体的な場所については教善寺の裏の土地であることは間違いないが、明確ではないので土地の形状から推定した位置を示している。

#### ・番号7. 立石(大石)古墳跡

和泉層の基底礫岩と思われるこの3mを越えるこの巨石を、地元の人々の多くは立石と呼んでいるが、実は、立石は別にあつたらしく、大石と呼ぶのが正しいらしい。過去に、須恵器(甕)の出土が確認されていて、破壊された古墳の石室用材の一つではなかろうか。

#### ・番号8. 堂之岡遺跡

平成元年に道路建設に伴う発掘調査で確認された。溝2、土坑14、ピット180余りの遺構が検出され、時期的には近世中頃～後半頃のものである。

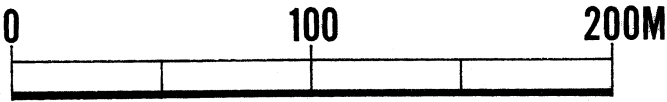
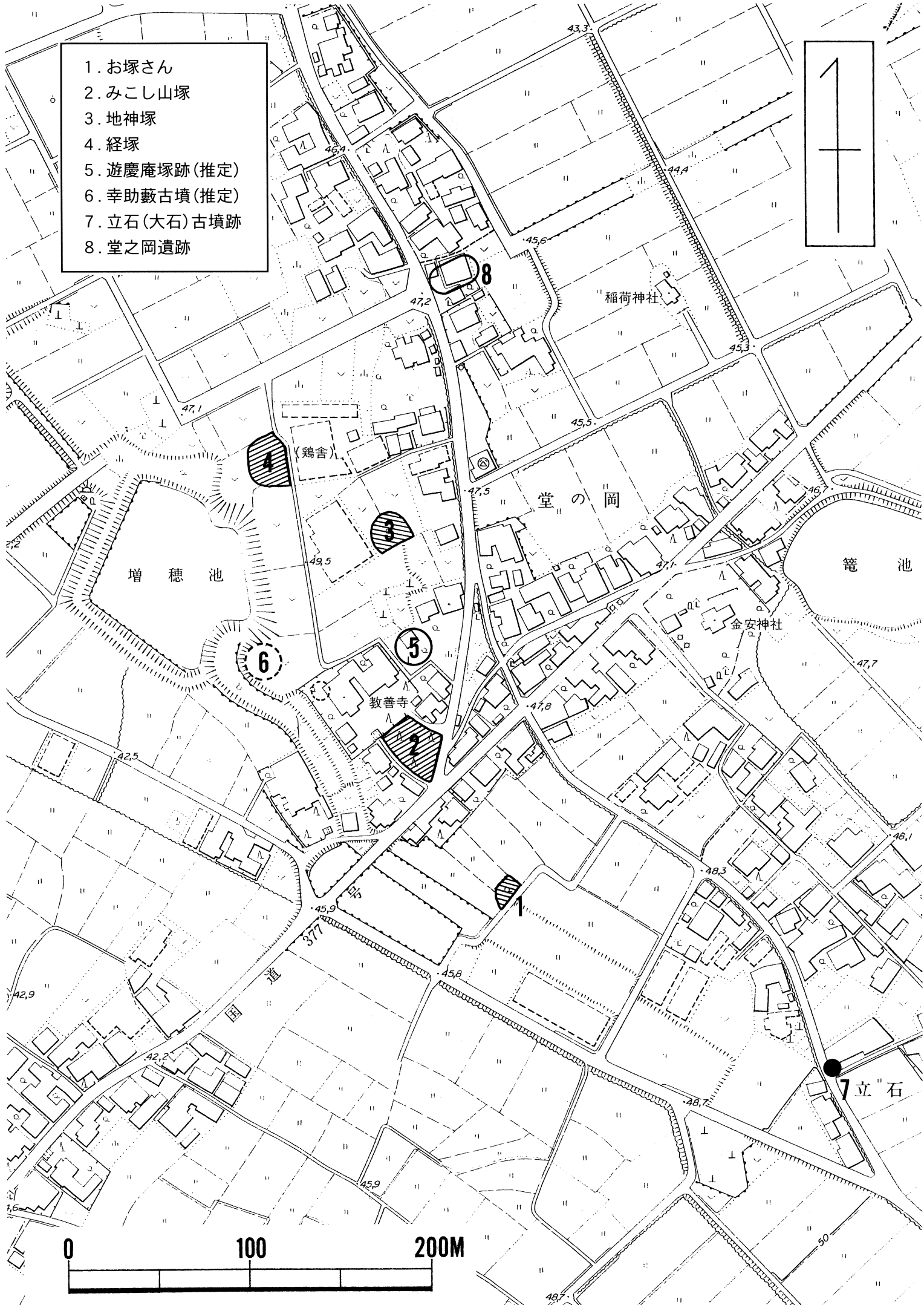
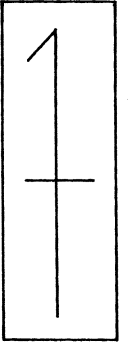
それでは、以下に地形測量とトレンチ調査の結果を記すことにする。

### ①お塚さん

観音寺市新田町字立石892-2に位置する。周囲は農地で囲まれているが、北側はコンクリート畦畔と水路、東・南・西側は圃場整備に伴う農道と農地であり、墳丘自体はかなりの破壊を受けているので、築造当初の姿の復原は困難である。2基の石塔がある墳頂部高は標高約50mであり、周囲との比高差は西側水路で約2.5m、東側農道で約2m程度の残存状況である。埋葬施設についても相当な破壊を受けていることが考えられ、1～2m超の巨石(和泉層の基底礫岩)が6個点在している。また、墳丘南側に露出する石材を確認できるが、それが仮に残存する石室の側壁であるとす



1. お塚さん
2. みこし山塚
3. 地神塚
4. 経塚
5. 遊慶庵塚跡(推定)
6. 幸助藪古墳(推定)
7. 立石(大石)古墳跡
8. 堂之岡遺跡



るならば、石室開口は南南西方向であると考えられるが、石室内にはすべて土砂が流入していることになる。次に、墳丘規模であるが、前述のとおり復原は困難でありあえて推定するならば、直径15m程度の円墳ではないかと考えられる。

## ②みこし山塚

観音寺市新田町字堂ノ岡1274-1に所在する。金安神社の祭礼の際の神事場となっている。周囲は道路、寺院、住宅地となっており、墳丘とそれらの間には2~3m程の平坦な通路が道路以外の三方を取り巻いている。現存する墳丘の最上部は標高約52.2mで周囲との比高差は道路側で2.7m、教善寺側で1.8m、住宅地側で2.2mある。墳形については、現状は変形した台形状を呈するが、周囲からの削平や土盛りなどの形状変更がかなりされていることが想定され、詳細な発掘調査の機会を待ち判断せねばならないが、現段階では直径約30m近くの円墳であると考えられる。

また、石室開口方向は、墳丘南の住宅地側の標高51.2m付近に一石ではあるが、確認できる範囲で長さ80cm×幅30cmの砂岩(地形測量図中に斜線で示した。)がある。仮に、これが石室の石材であるとするならば、先述のお塚さんと同様南南西に開口するものと考えられる。近くの古老に話を聞くと石室が開口していた状況は過去に無く、未発掘の石室である可能性が高い。

## ③地神塚

観音寺市新田町字堂ノ岡1285に所在する。墳丘周囲の平坦地には、滑り台、ブランコ、砂場、鉄棒等の遊具が備え付けられ、墳丘上部の平坦面には地神祠が祀られている。

現在の墳丘上部の最高所は標高約52.8mある。周囲との比高差は南側で1.6m、北側で1.8mある。墳形は周囲の土地区画や残存する墳丘の状態から円墳であると考えられる。しかし、墳丘規模は特に墳丘の北、西、南側の削平の度合いがひどく復原が困難ではあるが、墳丘直径約15m前後のものと思われる。また、周囲の土地区画の状況から周溝の存在も考慮に入れた保護措置が今後必要であると思われる。

## ④経塚

観音寺市新田町字堂ノ岡1313-2に所在する。昭和37年の埋蔵文化財包蔵地カードによれば土地所有者の方が時代は特定できないが何回か発掘しているようである。最初の発掘で鉄刀、高杯、勾玉、管玉が出土しているが散逸している。

地形測量図をみると、墳丘の最高所は52.7mであり、周囲との比高差は南側で1.6m、北側で1.5mある。墳形は現状をみると方形であるが、後述する石室の配置とはしっくりこない。やはり、開墾や過去の発掘等で封土が削平された結果このような形になったのであって、もともとは円墳であったと考えるのが妥当ではないかと考える。そのようなことから、古墳の規模を推定すると直径約25m程度になると考えられる。

次に、各トレンチの状況を記することにする。

### ◎トレンチ1 ((4m×1m)+(0.6m×0.7m)+(0.5m×1.2m))

墳丘上で唯一石材が露出している場所であり、また、地形測量図の状況から本トレンチの区域を設定し、遺構の残存状況を確認するため調査を開始した。

高さ1.2m超、幅約2.5m、奥行0.5mの板状の巨石A(砂岩)を確認した、恐らくは横穴式石室の玄室の側壁の基底石ではないと思われる。この巨石Aは北西側(内側)に約5度傾斜している。表土下、約1.5mまで検出したところ、最下層付近で円礫が混入する層が確認できたが、明確な埋葬床面は確認できなかった。また、遺物についても古墳時代のものはごく少量であった。

### ◎トレンチ2 (3.5m×1m)

トレンチ1にほぼ平行に少し北西寄りに、トレンチ1で確認した巨石こともあり、羨道の状況や石室の規模確認のために設定した。本トレンチで判明したことは、大規模な破壊を受けていることである。表土下1.8m近くまで検出作業を行ったが、最下層の礫層(土層図Ⅱのスクリーントーンの部分)からは須恵器片とともに新しい瓦片が出土する状況である。しかし、土層図Ⅱの最下層の斜線で示した比較的大き目の石材が左右2mの間隔をおいて確認することができた。石室全体を検出してみなければ断言できないが、トレンチ1の巨石Aの延長線上のもので、石室の基底部に相当するものであると考えられる。

また、トレンチの中央部に長さ1.6m、幅0.6m超、高さ0.8mの巨石D(砂岩)を検出した。位置的には、前述の石室の入口を塞ぐような状態である。一つの可能性としては、玄門立柱が破壊を受け倒れたものであると考えられる。現時点では判然としないが、仮にそれが玄門立柱であるとするなら玄室の長さが確定でき約5mであることが推測可能となる。

### ◎トレンチ3 (1m×1m)

トレンチ1から北西へ1.2m寄ったところに設定した。ここでは、トレンチ1の巨石に対応する別な巨石B(奥行0.4m)の一部とその内側に接して直交する三つ目の巨石Cの一部(玄室の奥壁?)を確認した。これによって、石室の幅は約2mあることが推測することができた。

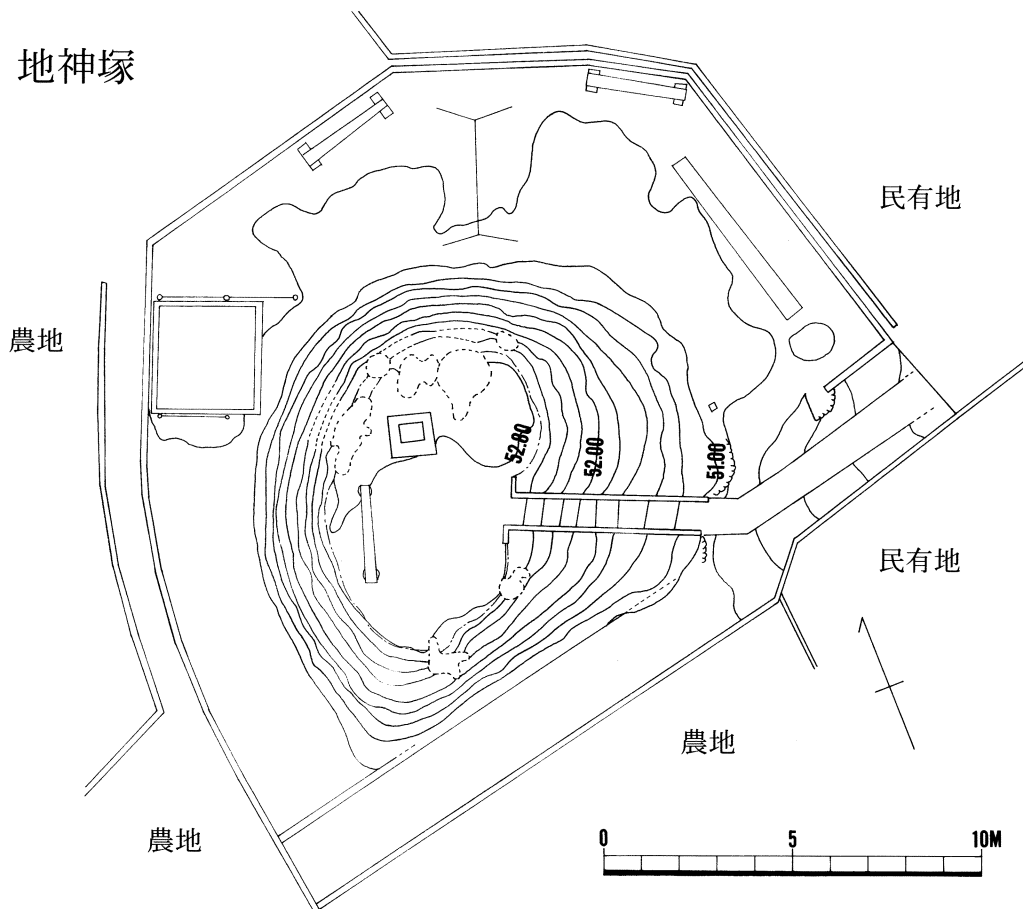
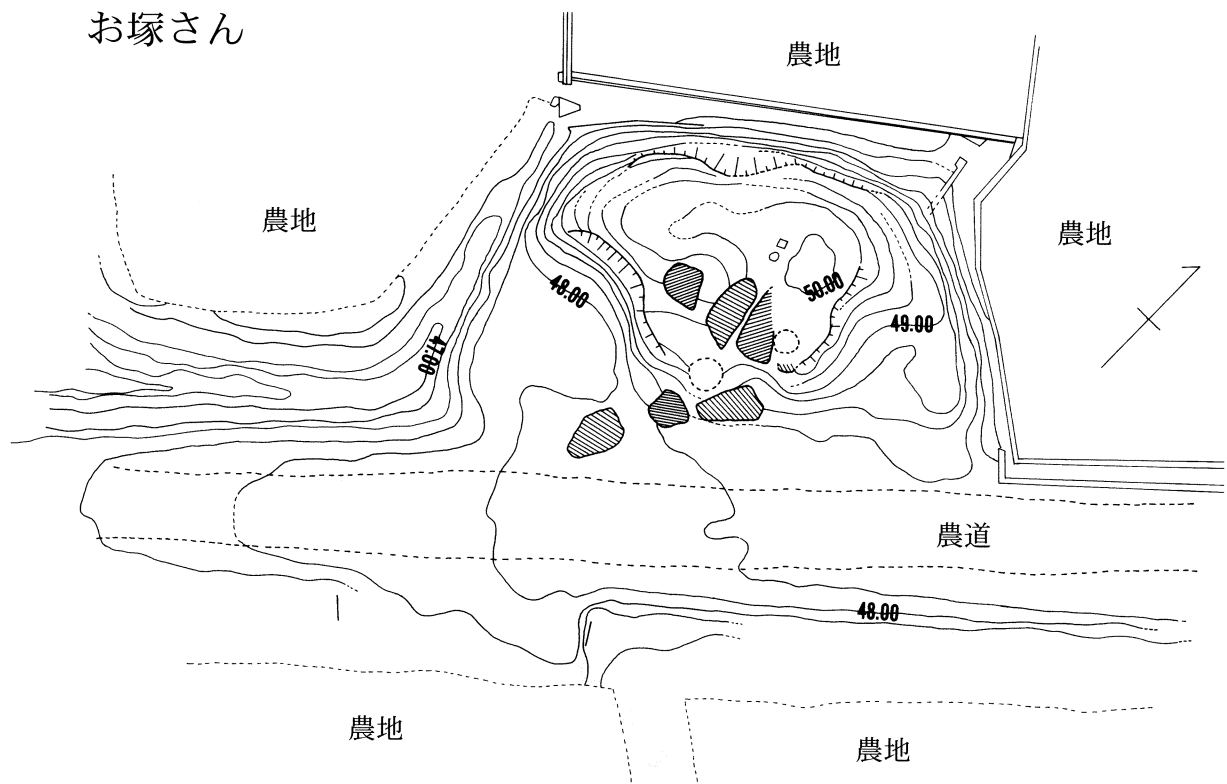
### ◎トレンチ4 (1m×1m)

トレンチ3で確認した巨石Bの大きさ等や石室の形状を明確につかむために設定した。地表下1mまで検出作業を行ったが明確な遺構は確認できなかった。

今回の調査ではトレンチを4箇所設定したが、うち3箇所です室の残存状況を確認できた。今後、全体の状況が把握される機会を待たねばならないが、現時点で推測できることは、埋葬施設は南西方向に開口する横穴式石室で玄室長約5m、玄室奥壁幅約2mの規模で板状の巨石A、B、Cを玄室奥の基底石として配置する構造をとっていることである。また、築造年代はもう少し検討しなければならない点もあるが、出土遺物から6世紀後半のもと思われる。

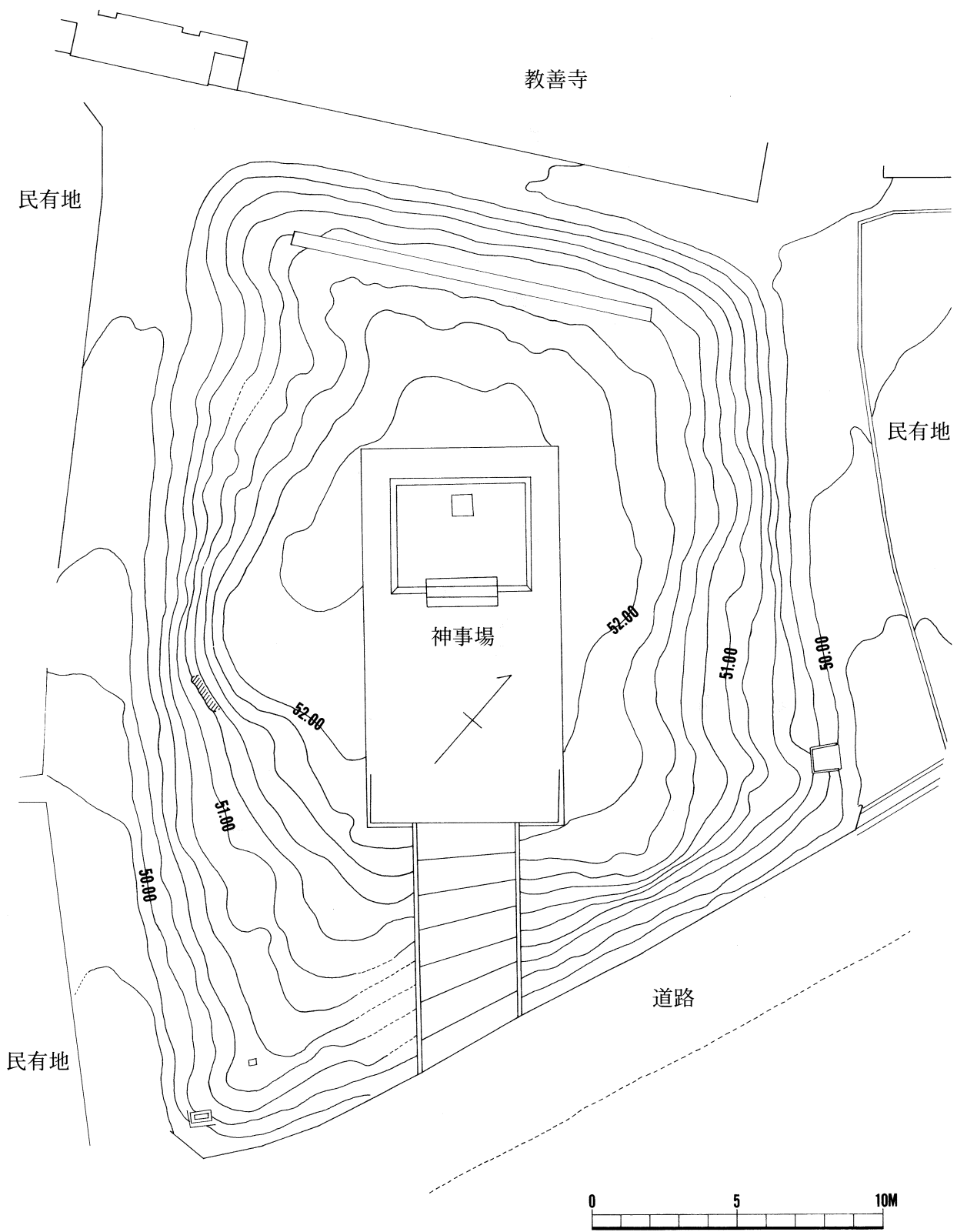
### (2)まとめ

重点調査地区には確実なもので6基の古墳があり、それに加え伝承であるとか表採または土地の形状などで可能性のあるものを含めると8基となる。恐らく、古墳時代においてはもう少し多い群を形成していたのだろう。数的には近くの母神山古墳群に比すれば見劣りもするが、支群単位でみた場合とか、個々の内容を詳しく比較すればどうであろうか。みこし山塚や経塚のような比較的大きな墓が造営されていることは看過できない。また、立地の面は条件が異なることもあるが、独立丘陵の尾根上に立地するものが多い母神山古墳群に対して、比較的なだらかな洪積台地状に、ある程度の間隔を保ちながら群を形成する違いをみせている。時期的には両者が並行するようであるので、このようなことから、これまであまり注目されていなかった堂ノ岡・立石の古墳群の性格を評価する場合、今後において母神山古墳群との関係などを念頭にいれ検討する必要性があるのではないかと。



お塚さん・地神塚地形測量図





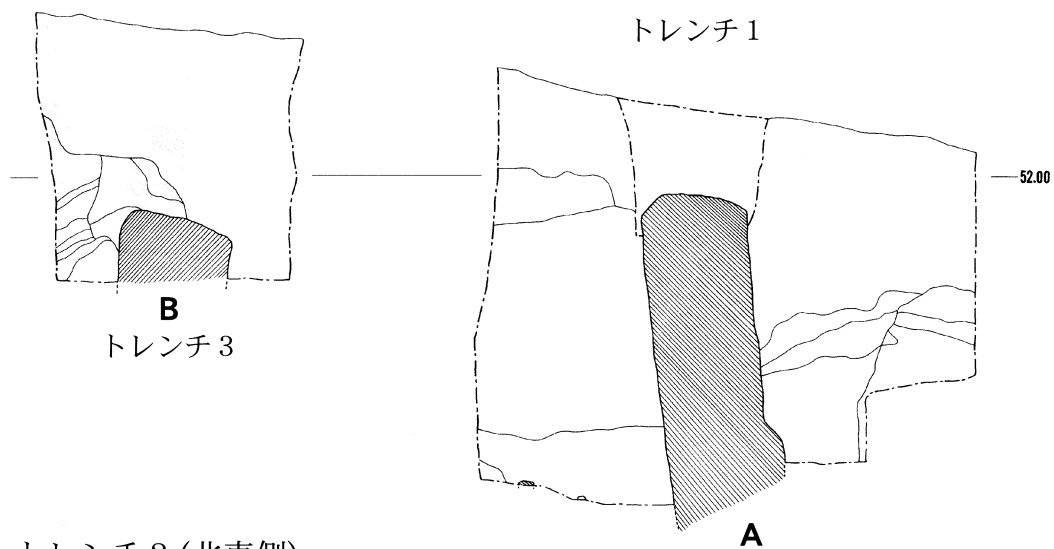
みこし山塚地形測量図



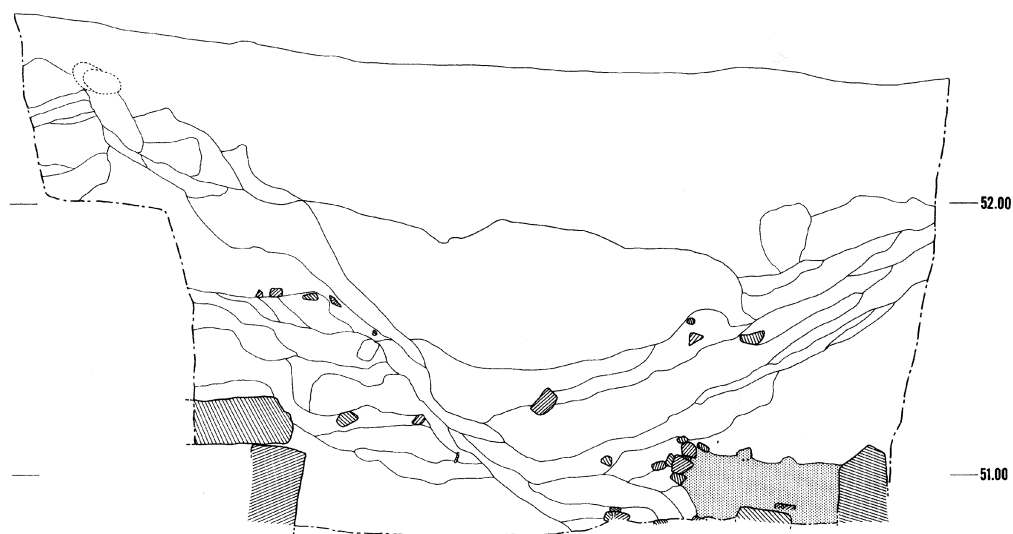
経塚地形測量図・トレンチ配置図

# 土層図

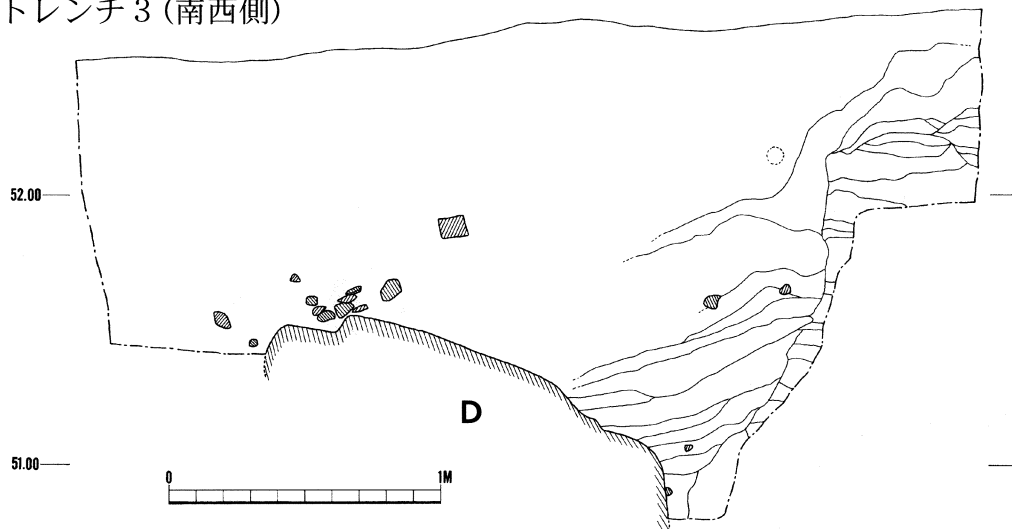
## I. トレンチ1・3



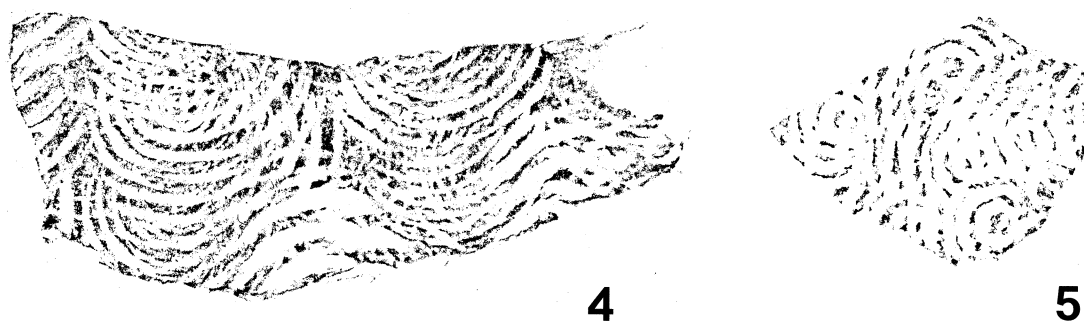
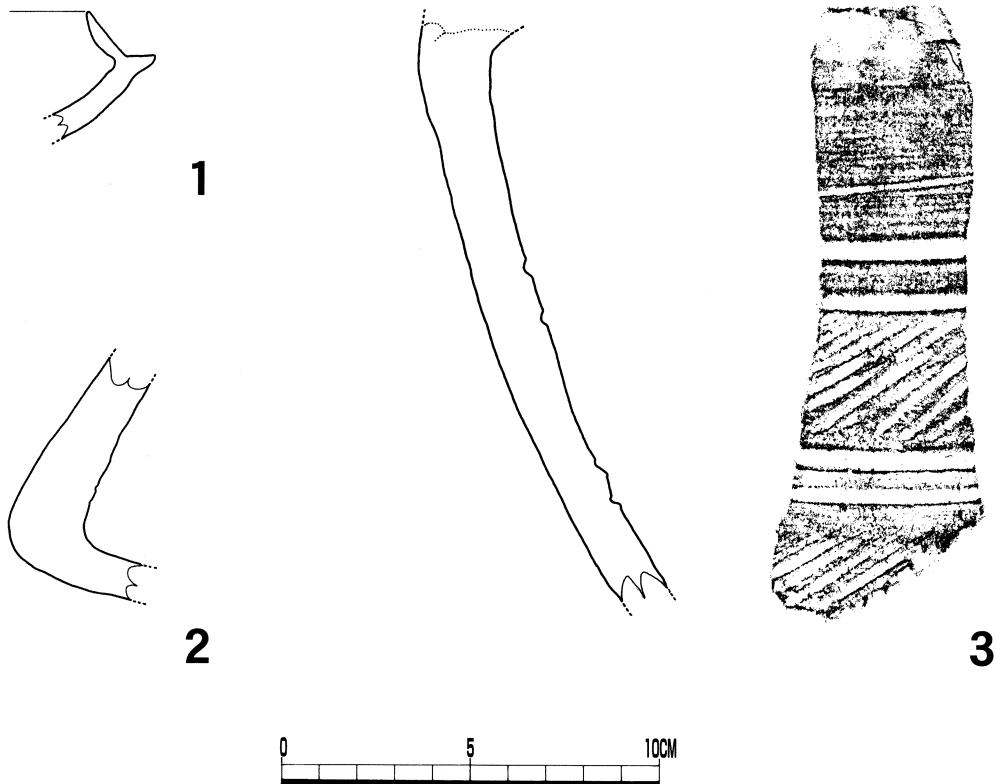
## II. トレンチ2 (北東側)



## III. トレンチ3 (南西側)



出土遺物実測図・拓本



- 1. 経塚(表面採集)
- 2. 同上(トレンチ2)
- 3. 同上(トレンチ2)
- 4. 同上(トレンチ2)
- 5. 同上(表面採集)
- 6. 同上(表面採集)





## 6. 写真目次

	頁
1. お塚さん（全景・南側から撮影）【地図番号39】	20
2. お塚さん（全景・西側から撮影）	
3. みこし山塚（全景・北東側から撮影）【地図番号38】	
4. みこし山塚の石室の一部と考えられる石材の露出状況	
5. 地神塚（東側から撮影）【地図番号37】	
6. 地神塚（全景・北西側から撮影）	
7. 地神塚墳丘上部の平坦面の状況	21
8. 経塚（全景・北東側から撮影）【地図番号34】	
9. 経塚（全景・南側から撮影）	
10. 経塚（全景・南西側から撮影）	
11. 経塚・トレンチ1の遺構検出状況（1）	
12. 経塚・トレンチ1の遺構検出状況（2）	
13. 経塚・トレンチ1の土層の状況（北東側）	22
14. 経塚・トレンチ2の遺構検出状況（1）	
15. 経塚・トレンチ2の遺構検出状況（2）	
16. 経塚・トレンチ2の土層の状況（北東側）	
17. 経塚・トレンチ3の遺構検出状況	
18. 経塚・トレンチ3の土層の状況（南西側）	
19. 経塚・トレンチ4の土層の状況（南西側）	23
20. 経塚・トレンチ2の巨石と北西側の土層の状況	
21. 経塚・出土遺物1【実測図・拓本番号2】	
22. 経塚・出土遺物2【実測図・拓本番号3】	
23. 経塚・出土遺物3【実測図・拓本番号4】	
24. 経塚・出土遺物4【実測図・拓本番号5】	
25. 大塚【地図番号11】	24
26. 野津古塚【地図番号13】	
27. 古川銅鐸出土地【地図番号15】	
28. 巫子塚（平塚）【地図番号18】	
29. 青塚古墳（後円部）【地図番号23】	
30. 砂礫古墳【地図番号25】	
31. 大原東古墳【地図番号44】	25
32. 四ツ塚古墳跡【地図番号41】	
33. 立石（大石）古墳跡【地図番号40】	
34. 鐘子塚古墳の横穴式石室【地図番号34】	
35. 黒島林大龍王古墳【地図番号30】	
36. 黒島林1号古墳石室（移築）【地図番号29】	



1. お塚さん(全景・南側から撮影)【地図番号 39】



2. お塚さん(全景・西側から撮影)



3. みこし山塚(全景・北東側から撮影)【地図番号 38】



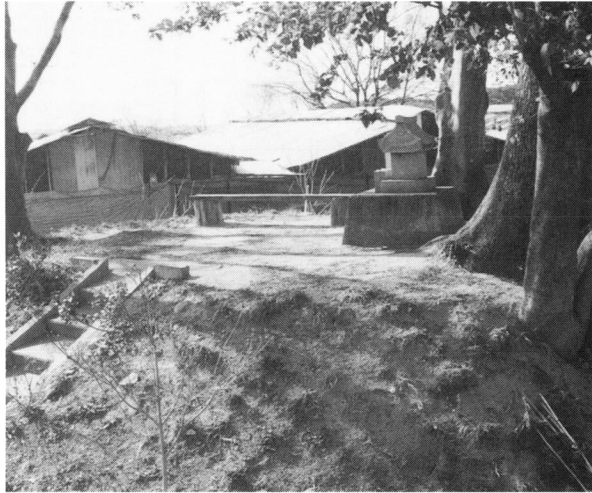
4. みこし山塚の石室の一部と考えられる石材の露出状況



5. 地神塚(東側から撮影)【地図番号 37】



6. 地神塚(全景・北西側から撮影)



7. 地神塚墳丘上部の平坦面の状況



8. 経塚(全景・北東側から撮影)【地図番号 34】



9. 経塚(全景・南側から撮影)



10. 経塚(全景・南西側から撮影)



11. 経塚・トレンチ 1 の遺構検出状況(1)



12. 経塚・トレンチ 1 の遺構検出状況(2)





13. 経塚・トレンチ1の土層の状況(北東側)



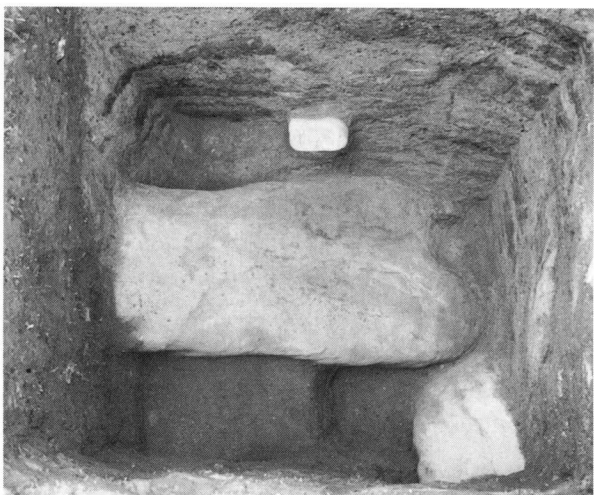
14. 経塚・トレンチ2の遺構検出状況(1)



15. 経塚・トレンチ2の遺構検出状況(2)



16. 経塚・トレンチ2の土層の状況(北東側)



17. 経塚・トレンチ3の遺構検出状況



18. 経塚・トレンチ3の土層の状況(南西側)

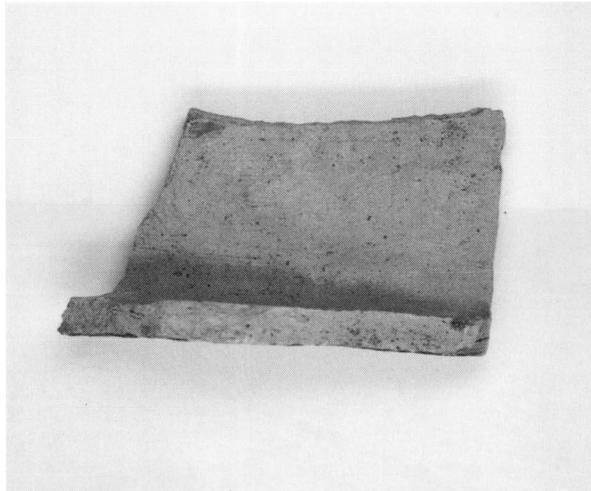




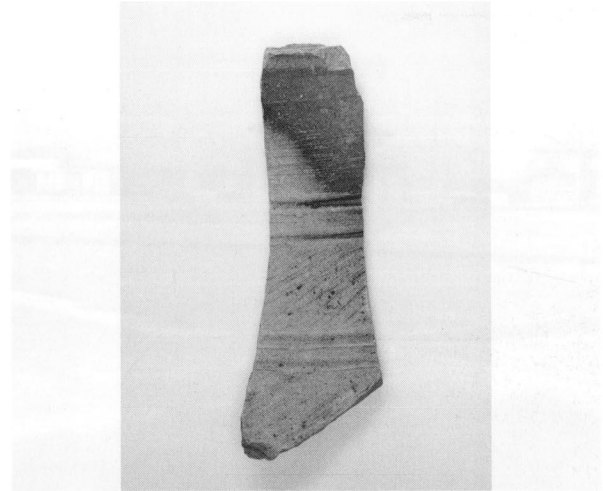
19. 経塚・トレンチ 4 の土層の状況 (南西側)



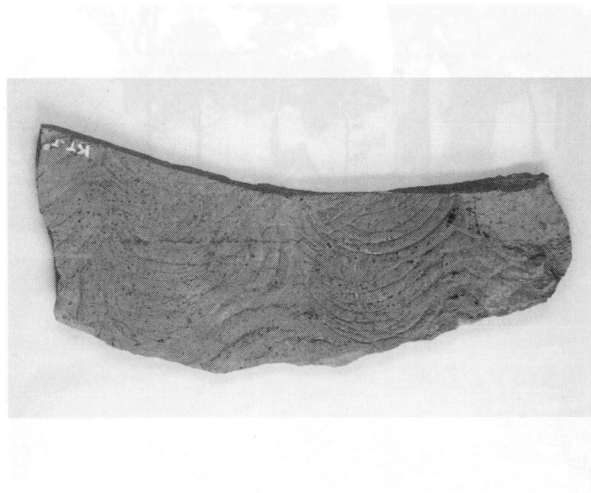
20. 経塚・トレンチ 2 の巨石と北西側の土層の状況



21. 経塚・出土遺物 1【実測図・拓本番号 2】



22. 経塚・出土遺物 2【実測図・拓本番号 3】



23. 経塚・出土遺物 3【実測図・拓本番号 4】



24. 経塚・出土遺物 4【実測図・拓本番号 5】



25. 大塚【地図番号 11】



26. 野津古塚【地図番号 13】



27. 古川銅鐸出土地【地図番号 15】



28. 巫子塚(平塚)【地図番号 18】



29. 青塚古墳(後円部)【地図番号 23】



30. 砂礫古墳【地図番号 25】



31. 大原東古墳【地図番号 44】



32. 四ツ塚古墳跡【地図番号 41】



33. 立石(大石)古墳跡【地図番号 40】



34. 罐子塚古墳の横穴式石室【地図番号 34】  
(左が上)



35. 黒島林大龍王古墳【地図番号 30】



36. 黒島林 1 号古墳石室(移築)【地図番号 29】



# 報告書抄録

ふりがな	かんおんじないいせきはつちょうさがいようほうこくしょ						
書名	観音寺市内遺跡発掘調査概要報告書						
副書名	平成14年度国庫補助事業報告書 詳細分布調査概要報告書Ⅱ						
巻次							
シリーズ名							
シリーズ番号							
編著者名	観音寺市教育委員会事務局 生涯学習課 主査 久保田昇三						
編集機関	観音寺市教育委員会						
所在地	〒768-8601 香川県観音寺市坂本町1丁目1番1号 TEL 0875-23-3943						
発行年月日	西暦 2003年 3月31日						
ふりがな		コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡	所在地	市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "	m <sup>2</sup>	
おつかさん お塚さん	観音寺市 新田町 字立石892-2	37205		34度 5分 60秒	133度 42分 21秒	113	観音寺市内 遺跡発掘調 査事業
みこしやまづか みこし山塚	観音寺市 新田町 字堂ノ岡1274-1	37205		34度 6分 3秒	133度 42分 20秒	519	
じじんづか 地神塚	観音寺市 新田町 字堂ノ岡1285	37205		34度 6分 6秒	133度 42分 19秒	102	
きょうづか 経塚	観音寺市 新田町 字堂ノ岡1313-2	37205		34度 6分 8秒	133度 42分 16秒	404	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項	
お塚さん	古墳	古墳	横穴式石室?	須恵器			
みこし山塚	古墳	古墳	不明	須恵器			
地神塚	古墳	古墳	不明	無			
経塚	古墳	古墳	横穴式石室	須恵器			



観音寺市内遺跡発掘調査概要報告書  
平成14年度国庫補助事業報告書

## 詳細分布調査概要報告書Ⅱ

2003(平成15)年3月31日発行

編集・発行 観音寺市教育委員会

〒768-8601

香川県観音寺市坂本町一丁目1番1号

電話 (0875) 23-3943

FAX (0875) 23-3925

印刷 株式会社 三豊印刷